

作成年月日：2021年6月1日（Ver.1.0）

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法に関する

Dual energy CT を用いた治療効果判定及び予後予測

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦2020年10月から西暦2021年5月までの間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院消化器内科
- 3) 対象疾患名：肝細胞癌と診断された方

【診療情報等の項目】 診療情報等：病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、CT 画像、血液検査結果（全血算、肝機能）

【研究目的】 切除不能な肝細胞癌に対して、近年多数の分子標的治療薬が使用可能となりました。分子標的治療薬の抗腫瘍効果は、血管新生の抑制によるものが主体であり、腫瘍の大きさが変わらないまま腫瘍の造影効果が低下することが多くみられます。しかし、薬の量を減らしたり治療を中断すると造影効果が再度出現する場合もあり、腫瘍内の正確な血流評価を行う画像診断が望まれています。2020年9月25日に本邦で、免疫チェックポイント阻害薬であるアテゾリズマブと分子標的治療薬であるベバシズマブの併用療法が保険収載され、投与可能となりました。新たに免疫チェックポイント阻害薬が加わることで、さらに複雑な画像動態を示す可能性があります。画像診断手法である Dual energy CT は、2つの管電圧で撮影することで2種類のX線エネルギーのデータを取得することが可能なCT装置です。機器の発達より詳細な画像解析が可能となり、臨床的な有用性が多数報告されている他、造影剤をマッピングすることにより、より正確な血流評価が行えることが期待されています。本治療における治療効果判定や予後の予測に、この Dual energy CT が有用かどうかの検討を行います。

【研究（利用）期間】 研究実施許可日から西暦2025年12月まで

【利益相反に関する事項】 本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）

：久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 岡村 修祐

問い合わせ担当者：久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 岡村 修祐

電話: 0942-31-7561

E-mail: okamura_shyuusuke@kurume-u.ac.jp

研究番号 21096